2013 年度立命館大学校友会　東日本大震災復興支援事業東北応援ツアーレポート
「現地を訪問して思うこと」
宮城県コース
長谷川　伸　2001 年　文学部卒

この大震災を生き抜いた方々が、普通の生活を取り戻すべく、懸命に生きている姿を目の当たりにし、改めて今私が過ごしている日常の有り難さを感じています。これまで、テレビや新聞報道等で知識としては分かっていたものの、現実の被災地を自分で感じることによって、決して他人事ではなく、自分の国の問題、自分自身の問題として今回の大震災を捉えることができました。そこで、この度の被災地訪問で学んだことを 2 つの視点から考えてみます。

一つ目は、理解と支援を継続させることの必要性と重要性です。被災された方の中には、会社が廃業に追い込まれ、膨大な借金を抱えて再出発をされた方がいらっしゃいます。再出発のための融資を得ることはできても、背負ってしまった負債に対しては自分たちで負うことになるということです。私たちは、そうした被災者に対して一体何ができるのでしょうか。実は簡単なことでした。これまで通りに、被災地を東北の観光地として訪れ、経済の循環の一役を担うことです。これを継続することが、被災地以外に居住する者ができる持続可能な復興支
援なのです。

2 つ目は、この大震災から何を学んだのかということです。日本は地震大国と言われている通り、毎日大小を問わず多くの地震が起こります。時には、大地震が突如として起こります。そこで、天災は仕方がないにしても、人災をいかに最小限にできるか、が被害を最小限にくい止めるポイントになります。想定外という言葉を聞かなくて済む社会にしていきたいものです。お世話になったホテルの女将の話に、「千年に一度の災害は、千年に一度の学び」という言葉がありました。たいへん力強い言葉でした。たくさんの方の犠牲を無駄にすることなく、今一人ひとりが 3,11 の教訓を考えるべきだと思いました。